

講義名	金融論（経済学部）			授業形態	
担当教員	羽森 直子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	単位数	2
履修開始年次			2年生	ナンバリング・コード	ECN264
主題と概要					
<p>この授業では、金融論の入門レベルの講義を行い、経済学部の学生が最低限身につけるべき知識の習得を目的とする。経済活動においては財・サービスの取引とともにお金の取引（金融）が重要な役割を果たしている。金融に関する知識は社会生活において不可欠だが、大学生は社会人としての経験に乏しいのでビシと来ない部分が多くあるかもしない。授業では我々の生活に身近な金融商品の特徴から始め、金融システムやマクロ経済を安定化させるための政策などについて解説・検討し、金融活動を通じた経済の仕組みを学ぶ。各受講生が興味を持てるように、企業金融に関するトピックスについても探り上げる予定である。</p>					
到達目標					
<p>(1) わが国の金融システムや企業金融についての基本的な仕組みと機能を学修し、現代社会における金融の意義と公共性について考察できる。 (2) 金融に関する新聞記事やテレビニュースを理解して、経済社会に与える影響を考察して説明できるようになる。 (3) ダイナミックに変化する現実の経済を金融の側面から観察して自分なりの見解を持ち、将来の経済の動きに対して展望を持ったり課題の解決策を提案できるようになる。</p>					
提出課題					
<p>中間レポート課題 隨時、宿題も提出していただく。 詳細は、授業中に指示する。</p>					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
<p>随時実施する宿題については、提出後に、授業で解説、講評を行う。 中間レポート課題については、提出前に提出に関する注意事項を説明する。また、中間レポート提出後には全体的な講評を行いう予定。</p>					
評価の基準					
<p>中間レポート（約30%） 期末筆記試験（約70%）</p>					
履修にあたっての注意・助言他					
<p>この授業は「株式投資による儲け方など金融資産の運用方法」を解説するものではない。そのように考へている学生には期待外れの退屈な授業となるだろうから、履修をお勧めできない。 他の授業科目をより深く理解するためには、「経済学入門」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」を履修していくことが望ましい。また、より発展的に金融を学びたい学生には「金融政策論」や「国際金利論」の授業を履修することを推奨する。</p>					
<p>ノートと筆記用具を準備して、必ずメモを取っていただきたい。 対面授業中の私語・携帯操作その他態度不良の場合、教員は注意をする。何度も注意された学生は、次のステップとして得点を大幅に減点されることがある。</p>					
教科書					
<p>・使用しません。</p>					
参考図書					
・金融の基本 新版.	田源直也	日本実業出版社		9784534057419	
・金融読本（第32版）.	中島真志他	東洋経済新報社		9784492100387	

その他

授業中に随時資料を配布する。参考文献は、適時紹介する。

授業計画

- 第1回 授業の進め方、金融論で何を学ぶか
- 第2回 金融の基本 : 経済指標
- 第3回 経済・金融の基本 : 稲葉彌彦
- 第4回 経済・金融の基本 : 中央銀行と金融政策
- 第5回 お金を使う目的
- 第6回 お金を使おう商品 : 知つておくべきこと
- 第7回 お金を使おう商品 : 売り方
- 第8回 貯蓄型金融商品
- 第9回 債券
- 第10回 保険
- 第11回 投資信託
- 第12回 外貨建て金融商品
- 第13回 金融商品と税金
- 第14回 ポートフォリオとデリバティブ取引
- 第15回 まとめと感想会

授業形態（アクティブラーニング）

ア : PBL（課題解決型学習）	イ : 反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ : ディスカッション、ディベート	エ : グループワーク
オ : プレゼンテーション	カ : 実習、フィールドワーク
キ : その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義ノートと配布資料の内容について復習し、内容を理解しておくこと。（1時間 × 15回=15時間）
 数回目を求める宿題の作成にあたり、調査、まとめを行うこと。（15時間）
 中間レポート、期末筆記試験対策にあたっては、各約1ヶ月間にわたり資料や文献を調査し、レポートを作成、あるいは講義ノートや配布資料を復習して試験準備をすること。（30時間）
（合計60時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

到達目標（1）（2）（3）を達成することで、経済学部経済学科ディプロマポリシー（DP）に貢献できる。具体的には、以下のとおりである。
 金融の基本をもとに、経済の金融問題を理解して問題を解決していくことは、今後の職場で社会的議論や専門的な議論の発表に求められる。
 金融の仕組みを知り、現実の金融問題を理解する能力を持つことで、世の中の動向を読み取る力があり、経済社会の課題解決につながる分析ができるようになる。
 また、到達目標（1）（2）（3）を達成することで、経済学部経済情報学科ディプロマポリシー（DP）にも貢献できる。つまり、金融の仕組みを知り、現実の金融問題を理解して見解を持つことにより、経済に関する十分な知識を身に付け、経済にまつわる情報を分析し、活用することができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業に関する質問をメールで行う場合、必ず大学から配布されたアドレスから送信すること。